

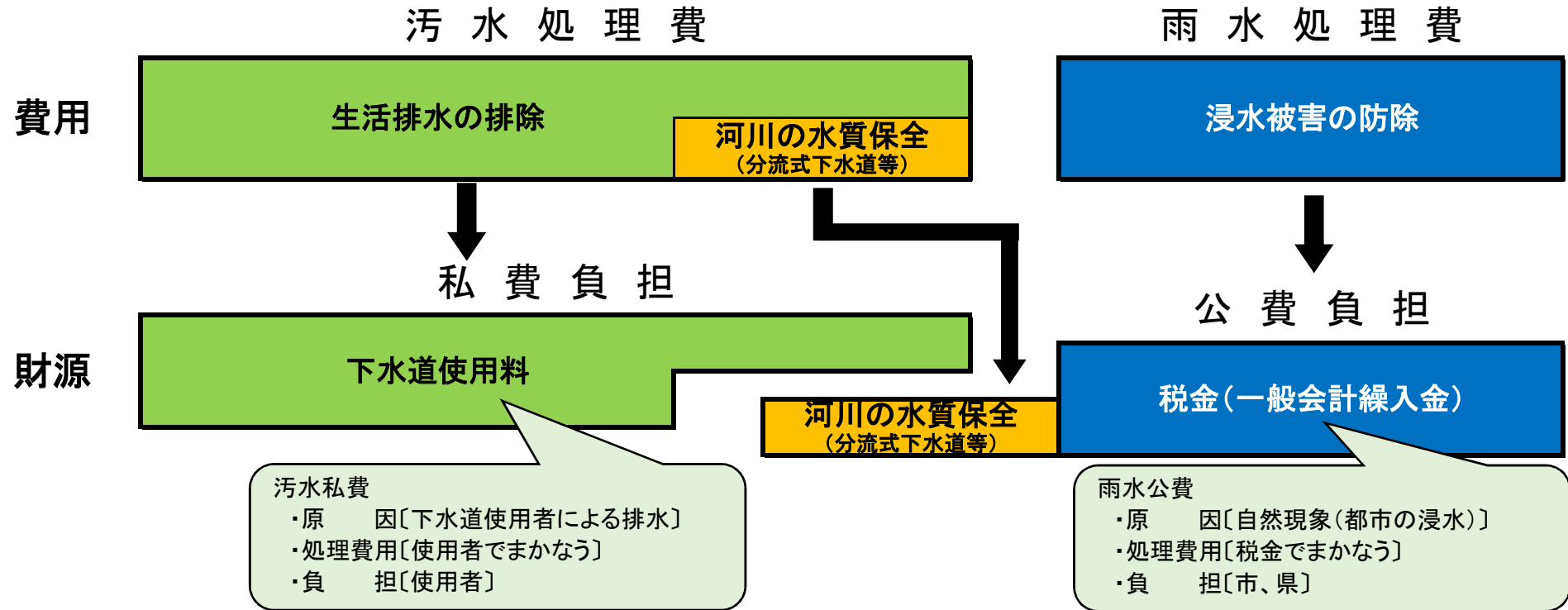
令和元年度決算について

～決算からみる現在の経営状況～

福島市 都市政策部 下水道室

令和2年10月21日

〔下水処理の費用負担の原則(雨水公費・汚水私費)〕



●他会計繰入金

①下水道事業会計 (単位:千円)

行	年度 区分	令和元年度 決算	比率
1	基準内繰入金	2,783,522	86.2%
2	基準外繰入金	446,096	13.8%
3	合計	3,229,618	100%

②農業集落排水事業会計 (単位:千円)

行	年度 区分	令和元年度 決算	比率
4	基準内繰入金	144,369	89.7%
5	基準外繰入金	16,599	10.3%
6	合計	160,968	100%

(1) 下水道等使用料(下記の①、②とも、平成27年度以前は公営企業適用前なので、参考値)

① 下水道使用料(年度別)

← (参考) →			→ 公営企業適用			
平成25年度 (率)	平成26年度 (率)	平成27年度 (率)	平成28年度 (率)	平成29年度 (率)	平成30年度 (率)	令和元年度 (率)
3,381,674	3,484,247	2,949,595	3,259,046	3,236,332	3,216,707	3,201,721
—	—	—	100.0%	99.3%	98.7%	98.2%

下段の(率)は、平成28年度を100とした際の率

② 農業集落排水施設使用料(年度別)

← (参考) →			→ 公営企業適用			
平成25年度 (率)	平成26年度 (率)	平成27年度 (率)	平成28年度 (率)	平成29年度 (率)	平成30年度 (率)	令和元年度 (率)
26,203	27,012	22,511	24,442	24,465	23,971	23,780
—	—	—	100.0%	100.1%	98.1%	97.3%

下段の(率)は、平成28年度を100とした際の率

(2) 経営分析比較(下記①、②とも、上段が福島市、下段の斜体は法適用企業平均(直近データ…平成30年度まで))

① 下水道事業会計

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
流動比率	企業の支払能力をみるもので、一般的には200%以上が望ましく最低限度100%以上であれば良いとされている。	27.3	29.8	33.4	26.1
$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$ (%)		61.7	67.6	69.8	
酸性試験比率(当座比率)	流動資産のうち現金預金及び未収金などの当座資産と流動負債とを比較するもので、通常100%以上であれば良いとされている。	27.3	29.8	33.4	26.1
$\frac{\text{現金預金} + (\text{未収金} - \text{貸倒引当金})}{\text{流動負債}} \times 100$ (%)		53.6	60.2	62.9	
現金比率	即時支払能力を意味し、流動比率及び酸性試験比率とともに用いられる指標。	13.4	15.5	19.5	9.5
$\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$ (%)		37.2	44.1	47.6	

② 農業集落排水事業会計

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
流動比率	企業の支払能力をみるもので、一般的には200%以上が望ましく最低限度100%以上であれば良いとされている。	54.0	52.9	57.7	59.4
$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$ (%)		34.5	32.9	34.3	
酸性試験比率(当座比率)	流動資産のうち現金預金及び未収金などの当座資産と流動負債とを比較するもので、通常100%以上であれば良いとされている。	54.0	52.9	57.7	59.4
$\frac{\text{現金預金} + (\text{未収金} - \text{貸倒引当金})}{\text{流動負債}} \times 100$ (%)		—	—	—	
現金比率	即時支払能力を意味し、流動比率及び酸性試験比率とともに用いられる指標。	50.1	49.0	53.6	54.7
$\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$ (%)		—	—	—	